

危険な頭痛－特にクモ膜下出血－について



最近の健康指向の高まりを反映して、連日朝から晩まで病気を扱った番組が放映されています。中には、頭痛に関する内容もあるようです。頭痛の訴えで来院される患者様も多くおられますが、「昨日ぐらいから時々頭が痛いのですが、くもまっかでしょうか？」などとお話されますが、答えはノーです。クモ膜下出血の痛みは、金槌で殴られたような頭痛が突然（何時何分とわかる位）に起こるのが特徴です。出血の量が多い時は、頭痛を訴えた後、意識がなくなったり、麻痺をきたすこともあります。クモ膜下出血は、脳の動脈にできたコブ（動脈瘤）

が破裂することでおこるのが普通です。40～50歳代の患者さんが多いですが、20歳代でも、また70歳以上の高齢の方もあります。症状からクモ膜下出血が疑われれば直ちにCT検査を行い、出血が認められれば入院の上、脳血管撮影を行い、動脈瘤と診断されればできるだけ早く治療を行います。クモ膜下出血は、最初の出血が軽くても再破裂を起こすことで状態が悪化し、重篤な後遺症、または命に関わる状況になってしまうことがあります。治療の目的は、第一に再破裂を起こさないように動脈瘤を処理することです。従来より、開頭を行い動脈瘤の根元にクリップをかける手術が一般的に行われていますが、動脈瘤の部位などによりカテーテルによる塞栓術が行われることもあります。来院時の意識の状態がよいほど、元気に退院されることが多いわけですから「突然の激しい頭痛があれば脳神経外科へ」このことを特に覚えておいて下さい。

また、最近の画像診断の進歩により、MRI検査で破裂する前に動脈瘤が発見されることもあります。当院では、人間ドッグのみならず、脳ドッグも行っておりますので受診されてみることをお勧めします。

その他、御心配なことがあれば、気軽にご相談下さい。模型、図などを使ってわかりやすく説明いたします。

医師臨床研修について

平成16年4月より医師法が改定されました。大学医学部を卒業し医師国家試験に合格した医師は卒業後2年間医師臨床研修を修得しなければならなくなりました。厚生労働省からの臨床研修の理念は「医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野に関わらず、医学・医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的診療において頻繁に関わる負傷または疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない」というものです。市立伊丹病院でも、厚生労働省に届けている当院の臨床研修プログラムに則り、現在卒業後2年目の医師が3名、卒業後1年目の医師が4名、臨床研修を積んでおります。これまで内科、外科、整形外科、泌尿器科、麻酔科、産婦人科、小児科、放射線科、精神神経科などで指導医とともに研修していますが、さらに地域医療研修のため伊丹健康福祉事務所などででも研修を予定しております。

どの医師も熱心で将来を担う優秀な医師達です。主旨をご理解いただき皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

副院長 柏原 赳

○ 臨床研修医（上段左から大森・細田・横山・下段左から高・川村・谷井・矢野の各医師）



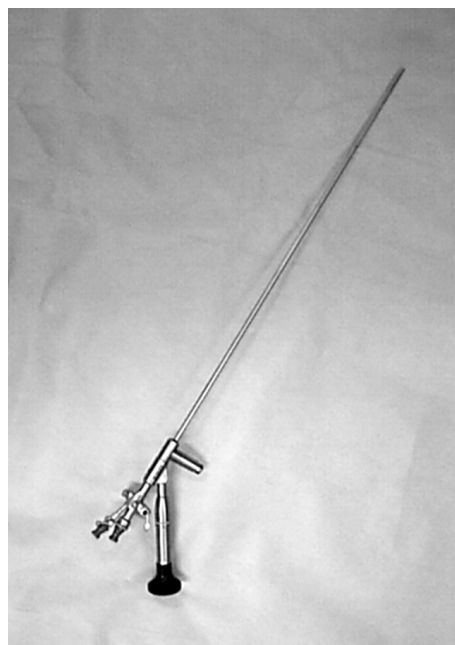
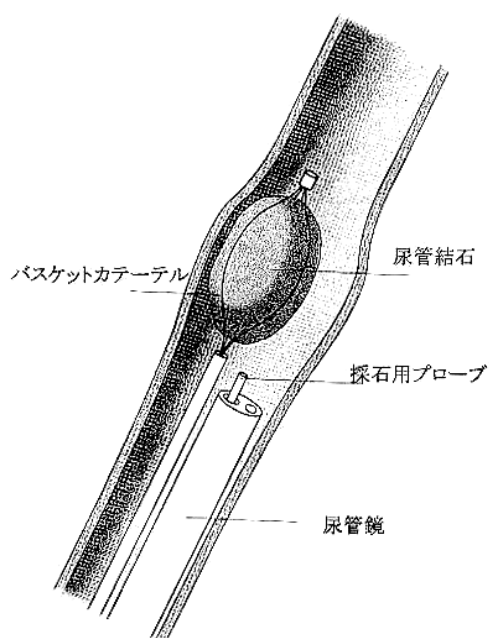
尿管鏡を用いた腎・尿管結石の治療

当院では腎・尿管結石の治療に際しては、身体に対して最も影響の少ない治療法として ESWL（体外衝撃波結石破碎術）を第一選択としていますが、結石の成分によっては破碎困難な事があります。このような場合、結石のある尿管あるいは腎の中まで尿管鏡を尿道から挿入し鏡視下で結石を直接に破碎し、つかみ出す経尿道的腎尿管結石摘出術（TUL）の適応となります。この度、先端径が約2.7mmの新型の尿管鏡（ウレテロレノスコープ）が購入されました。この尿管鏡は従来の太いもの（4mm以上）と比べ細径で尿管への挿入が容易であり、尿管口の損傷も少なく済むためTULがやりやすくなりました。TULの方法はまず尿管鏡を経尿道的に膀胱内に挿入し、さらに尿管口より尿管内へと進め結石に到達します。次に尿管鏡の中を通して結石破碎装置（リトクラスト）のプローブをセットします。リトクラストは空気圧による衝撃エネルギーが、プローブを振動させる装置であり他の碎石装置よりも強力且つ安全な装置です。実際には図の如く結石が動かないようにバスケットカテーテルで結石を把持し、鏡視下に碎石用プローブ先端を結石に接触させ衝撃を加えて破碎します。

結石治療以外の尿管鏡の利用としては

- ・腎盂や尿管の腫瘍の診断（組織生検）
- ・腎盂や尿管からの出血部位の判定と止血処置（電気凝固）
- ・尿管狭窄の治療（切開・バルーン拡張）

などがあります。



第4回 眼科・歯科口腔外科 健康教室のご案内

第4回眼科・歯科口腔外科健康教室を下記の通り開催します。

今回のテーマ

歯科口腔外科：痛くてかめない義歯の方へのインプラント治療
睡眠時無呼吸症候群への口腔内装置について
肺炎予防のための専門的口腔ケア

眼科：白内障の話
眼鏡の話

日 時	平成17年10月22日（土） 午後1時30分から3時30分まで
場 所	スワンホール（第6・第7会議室）
参加費	無 料

「女性総合外来」開設から1年がたちました。

当院では、平成16年9月に「女性総合外来」を開設し丸1年たち、おかげさまで好評です。今後も職員一同ますます努力し、誠意をもってみなさまの声にお応えしていきたいと考えております。

現在、女性スタッフも増え医師が8人（内科3人・産婦人科1人・小児科1人・眼科2人・皮膚科1人）に充実しました。

この一年間（昨年9月から今年の8月）の患者数は113人・年齢は、10代から70以上の各年代の方が受診され、院内の各専門外来診療科及び院外の専門医へのご紹介となっています。内訳は院内紹介は90・院外紹介は16となっています。

あらためて「女性総合外来」とは

- 女性の方で、女性医師に相談したい方、受診科が判らない方のために総合的に対応する外来です。
- ゆったりした環境でお話を伺います。
- 継続して治療が必要な方には責任を持って院内・院外専門医へのご紹介を行っています。

◎ 診療に関する日時・お問い合わせ先

※ 診察日時

毎週木曜日 午後2時から4時
完全予約制（1人30分）

※ 申し込み方法

総合案内で直接お申し込みいただくか、電話の場合は平日午後1時から4時まで女性総合外来担当（072-777-8320）で受け付けています。